

[報告]

岩手県における検診医確保戦略
—初期臨床研修医参画の意義—岩手県赤十字血液センター¹⁾, 岩手医科大学歯学部²⁾佐々木綾¹⁾, 田口千晴¹⁾, 乳井和夫¹⁾, 伊藤寛泰¹⁾, 中島みどり¹⁾, 中居恵子²⁾,
中村秀一¹⁾, 長岡芳男¹⁾, 梅野真和¹⁾, 中居賢司²⁾Problems in blood donation examination physician request of new
clinical resident doctor and significance in blood business*Iwate Red Cross Blood Center¹⁾, School of Dentistry, Iwate Medical University²⁾*Aya Sasaki¹⁾, Chiharu Taguchi¹⁾, Kazuo Nyuui¹⁾, Hiroyasu Ito¹⁾, Midori Nakashima¹⁾,
Keiko Nakai²⁾, Shuichi Nakamura¹⁾, Yoshio Nagaoka¹⁾, Masakazu Umeno¹⁾ and Kenji Nakai¹⁾

抄 録

岩手県赤十字血液センターでは、検診医不足の解消と血液事業の理解を深めるために、県が主導して設置している「いわてイーハトーヴ臨床研修病院群」と連携し、県内すべての初期臨床研修医に研修の一環として検診業務を依頼することを計画、実施した。

研修は2年間の計画とした。1年目は所長と医務課職員が研修病院へ出向し、1年次研修医に対し座学で講義と情報提供を行った。その後、院長面談も行った。2年目は検診実習を行った。その結果、平成29年度には2年次研修医72名が合計228回の検診業務を担当した。このことにより、県内全域での検診医確保や長期的な血液事業の理解が得られ、地域拠点病院との連携の向上につながった。

Key words: blood donation screening physician, clinical internship system, clinical resident, community medicine plan

【はじめに】

検診医の確保や地域拠点病院との連携および輸血医療の理解は、全国の地域血液センターの課題である^{1), 2)}。岩手県は全国で2番目に県土が広く、とくに沿岸地区の医師が少ないため、検診医の確保は極めて困難である。

岩手県赤十字血液センター（以下岩手センターと略す）は、県内すべての2年次研修医に検診業務を依頼することで検診医確保と血液事業の研修を提供することができたので報告する。

【研修を行うにあたり】

岩手センターで研修を行うにあたり、厚生労働省「新医師臨床研修制度における指導ガイドライン」（平成17年）³⁾（図1）と「日本赤十字社血液センターにおける医師臨床研修ガイドライン」（平成17年4月12日付血採第70号）を参考にした。研修の目標は、無償の献血者に接する献血現場での検診業務を通じて、献血の尊さと輸血用血液製剤の重要性を理解することとした。

【対 象】

岩手県では、県主導のもと「いわてイーハトーヴ臨床研修病院群」の名称で、県内12の臨床研修病院が連携して初期臨床研修を行っている⁴⁾(図2)。岩手センターは、すべての病院の研修協力施設として登録し、臨床研修の一環として2年次研修医に対し検診業務を依頼している。

【方 法】

(1) 研修のスケジュールと内容

1年次研修医に対し12月から3月の間に、検診に関する事前講習会を行った。各病院に出向き、所長と医務課職員が講師となり、座学で血液事業の在り方や検診業務の内容、問診タブレットの操作方法について説明した。さらに、献血時に発生し得る採血副作用の特徴や病態を実際の心電図記録などを提示し、病態に応じた対応方針などを概説した(図3)。事前講習会終了後にアンケートの記入を依頼し、事前講習会の内容改善につなげた。また、事前講習会にあわせて、学術担当職員も同行して院長面談を行い、各病院の診療状況や血液の需要動向などの情報交換を行った。

(2) 検診と評価

2年次の4月から検診業務を行った。研修医に対する検診業務の評価は、「研修医評価票」を用いて看護師が行った。内容は、マナー、安全管理、責任感、コミュニケーション、処理能力に関する13項目について4段階で評価した。この「研修医評価票」は、2月頃、医務課がまとめ、所長の確認後、各病院の臨床研修管理委員会へ報告した(図4)。

第4章 到達目標

II 経験目標

C. 特定の医療現場の経験

- 1) 救急医療
- 2) 予防医療
- 3) 地域保健・医療
 - ① 保健所
 - ② 介護老人保健施設・社会福祉施設
 - ③-1 中小病院・診療所：中小病院プログラム例
 - ③-2 中小病院・診療所：診療所プログラム例
 - ④ へき地・離島診療所
 - ⑤ 各種検診・健診の実施施設
 - ⑥ 赤十字社血液センター

厚生労働省「新医師臨床研修制度における指導ガイドライン」平成17年

図1 新医師臨床研修制度における指導ガイドライン

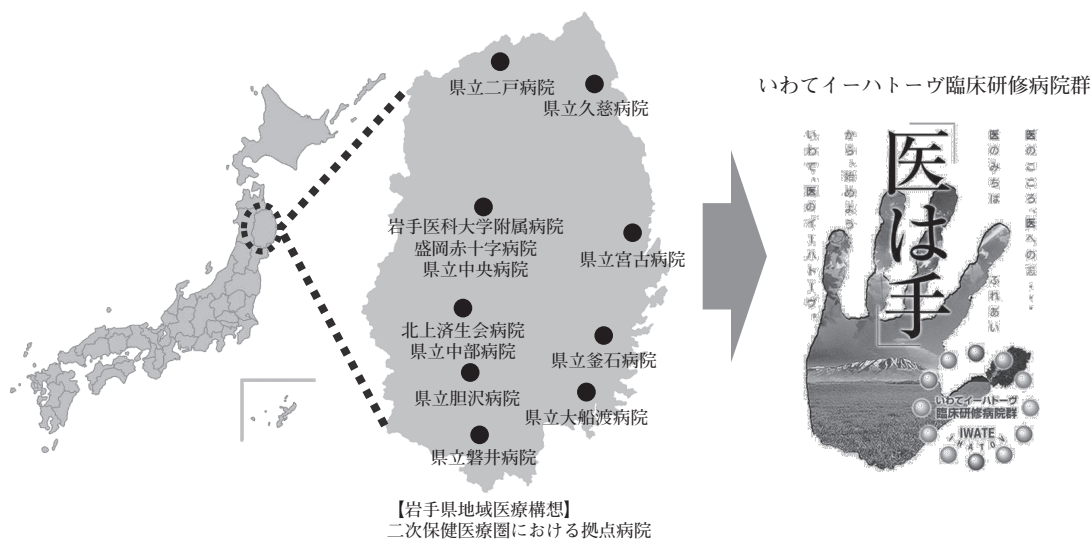


図2 岩手の臨床研修病院群(いわてイーハトーヴ臨床研修病院群)

【結 果】

- ①献血バスの検診，献血ルームの検診，土日祝日の献血ルームの昼時間帯の検診をそれぞれ1回とすると，平成29年度は1,084回分の検診医が必要であった。そのうち，研修医には献血バスの検診と献血ルームの検診を依頼し，全体の21%にあたる228回を，11病院72名の研修医が担当した(図5)。
- ②県北，県南，沿岸地区における検診医も確保でき，研修医の血液事業への理解や地域拠点病院との連携の向上につながった。
- ③事前講習会では，研修医から，献血の尊さと血液製剤が作られるまでの流れを学ぶ機会になった，採血副作用の病態や対応について学ぶことができた等の感想が寄せられた。
- ④院長面談では，各病院の診療状況や需要動向などの情報が得られた。

【考 察】

研修医に検診業務を依頼することにより，広域の県土を有する岩手県で検診医を確保することができた⁵⁾。新医師臨床研修制度において，研修医が献血検診医として血液事業に参画することは，将来の輸血医療を担う医師の育成に極めて重要と考えられる。また，地域の拠点病院である臨床研修病院の院長と面談を行うことで，各病院の診療の特徴や需要動向について情報が得られる他，血液センターへの理解・連携に寄与したと考えられる。

現在，検診業務においては認定インテビューア制度が導入されているが⁶⁾，それぞれの地域の研修医が参画することも今後の血液事業の運営にとって有益であると考えられる。

採血副作用の特徴と対応			
副作用種類	重症VVR	クエン酸反応	急性冠症候群
病態	副交感神経亢進	低Ca血症	心筋虚血・傷害
重篤な症状	意識喪失	口唇の青れ	心室細動
血圧	低下	軽度低下	低下
心拍数	低下	軽度上昇	上昇
SpO ₂	95-98%	>97%	低下(<94%)
対応	下肢挙上・運動	返血量調整	*心電図記録
心電図変化	ST変化なし	QTc延長	ST変化あり
有効治療	硫酸アトロピン	カルチコール	*救急センター
頻度*	重症VVR 0.08%	0.01%	稀

*頻度：平成30年度血液事業本部医務部血液資料より抜粋

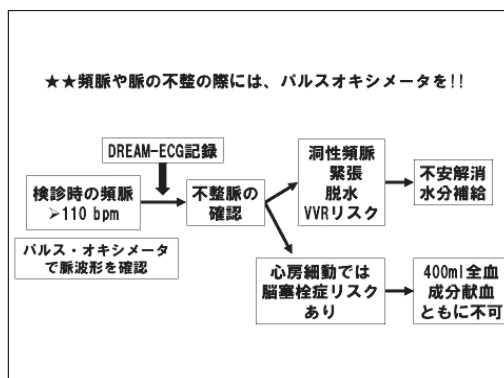
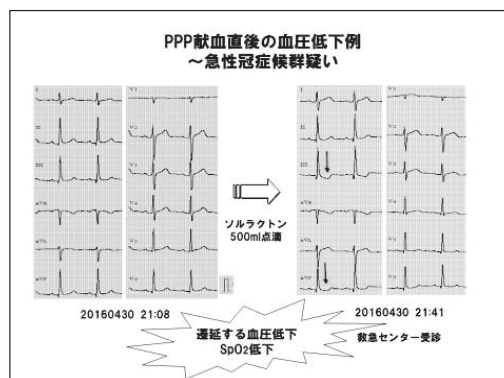
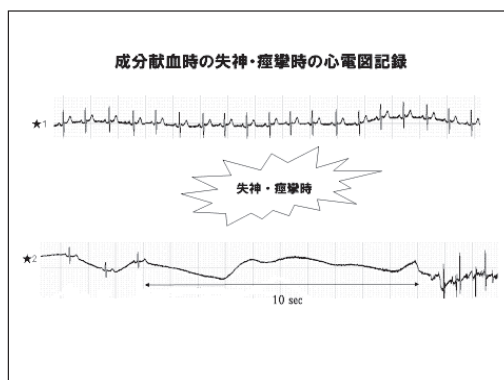


図3 採血副作用の特徴と対応

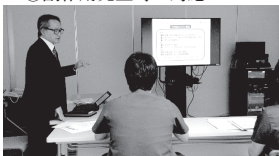
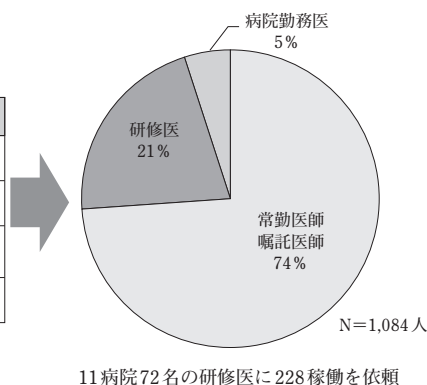
1 年次				2 年次											
12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
<div>研修会(座学)</div> <div>・ 場所：各病院</div> <div>・ 担当：所長，医務課職員</div> <div>・ 内容：</div> <div>①血液事業の在り方</div> <div>②検診業務の内容</div> <div>③副作用発生時の対応</div> <div></div> <div>・ 院長面談：</div> <div>学術担当職員も同行して，</div> <div>院長面談を実施</div>				<div>検診業務(実習)</div> <div>・ 献血会場への送迎は，タクシーを依頼する。</div> <div>・ 「研修医評価表」は，業務を看護師が評価する。</div> <div><div><div>研修医</div><div>研修日</div><div>年</div><div>月</div><div>日</div><div>研修医</div><div>研修医氏名</div><div>研修医氏名</div></div><div><div>研修日</div><div>年</div><div>月</div><div>日</div><div>研修医</div><div>研修医氏名</div><div>研修医氏名</div></div></div> <div><div>研修医評価表</div><div>研修日</div><div>年</div><div>月</div><div>日</div><div>研修医</div><div>研修医氏名</div><div>研修医氏名</div></div> <div><div>研修会</div><div>研修日</div><div>年</div><div>月</div><div>日</div><div>病院名</div><div>研修医氏名</div></div> <div><div>研修医評価表</div><div>研修日</div><div>年</div><div>月</div><div>日</div><div>病院名</div><div>研修医氏名</div></div> <div><div>安全確保</div><div>6</div><div>90分を遵守する</div><div>4</div><div>3</div><div>2</div><div>1</div><div>責任部</div><div>7</div><div>時間・約束を守る</div><div>4</div><div>3</div><div>2</div><div>1</div><div>8</div><div>責任部をもって行動する</div><div>4</div><div>3</div><div>2</div><div>1</div><div>コミュニケーション</div><div>9</div><div>献血者とのコミュニケーションがとれる</div><div>4</div><div>3</div><div>2</div><div>1</div><div>10</div><div>献血者に適切な説明をする</div><div>4</div><div>3</div><div>2</div><div>1</div><div>11</div><div>献血者とのコミュニケーションがとれる</div><div>4</div><div>3</div><div>2</div><div>1</div><div>応用能力</div><div>12</div><div>報告・連絡・相談を的確にする</div><div>4</div><div>3</div><div>2</div><div>1</div><div>13</div><div>仕事の進捗が的確である</div><div>4</div><div>3</div><div>2</div><div>1</div><div>総合評価</div><div>4</div><div>3</div><div>2</div><div>1</div></div>											

図4 初期臨床研修—検診医研修スケジュール(2年間の研修予定)

医師必要数(平成29年度)

献血場所	稼働数	検診医数(人)
①献血バス	612	612
②献血ルーム	363	363
③献血ルーム (土日祝日・13:00~14:30)	109	109
合計	1,084	1,084



11病院72名の研修医に228稼働を依頼

図5 検診医総数における研修医の割合(平成29年度)

文 献

- 1) 松坂俊光ほか：血液センターにおける卒後臨床研修の意義—臨床医の血液事業への理解を深めるための試み—，血液事業，34(2)：376，2011.
- 2) 北村弥生ほか：血液事業の研修受託による効果と今後の展望について，血液事業，41(2)：551，2018.
- 3) 新医師臨床研修制度における指導ガイドライン，http://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~p_health/

kenshu-gl/pdf/0/hajimeni.pdf

- 4) 岩手の臨床研修病院「いわてイーハトーヴ臨床研修病院群」，<http://www2.pref.iwate.jp/~hp0365/rinsyo/>
- 5) 佐々木綾ほか：岩手センターにおける検診医師確保の課題と対策，血液事業，41(2)：550，2018.
- 6) 平成30年度日本赤十字社 事業計画，<http://www.jrc.or.jp/about/pdf/事業計画%EF%BC%88PDF%EF%BC%9A9.2MB%EF%BC%89.pdf>